

もんじゅの廃炉を願う県民の皆さまへ

福井県平和・環境・人権センター
議長 勝見義治

福井県敦賀市長への抗議打電要請について

日頃の活動に心より敬意を表します。

政府が、「もんじゅ」の廃炉へ向けての今日が最終段階に入っているとの報道が、各紙のトップをにぎわせています。

21年間にわたる県民のみなさんの運動が、ようやく実を結ぼうとしています。

この間の努力に対しまして心より感謝申し上げます。

このような中、渕上敦賀市長は、「もんじゅ」を廃炉にさせないようと叫び、政府などに要請を続けています。

市民の声も聴こうともせずこのような醜態をさらしていることに対し、私たち福井県民として全く許せない思いでいっぱいです。

そこで、この醜態にくさびを打ち、「もんじゅ」の廃炉を確定させていくために全国からの打電行動をお願いいたします。

記

1、打電先・・・福井県敦賀市中央区2丁目1番1号

敦賀市長 渕上隆信（ふちがみ たかのぶ）

2、電文の例

- ① もんじゅは、大変危険な原子炉であり、安全管理出来ない物の存続を望むことを直ちにやめよ。
- ② 市長が安全を確保できる当てもないのに、もんじゅの存続を望むのは直ちにやめよ。
- ③ もんじゅが過酷事故を起こしたら私たちの暮らしや生命・健康が奪われてしまう。自分たちの都合だけで国に働きかけるべきでない。
- ④ もんじゅには、これまで1兆2千億円も投じてきている。成功するはずがないのにさらに6千億円+3千億円も税金を使うことを許せない。自分たちだけがよいでは済まされない。
- ⑤ もんじゅが過酷事故を起こしたときは、敦賀市長が責任を取れるのか。自分たちの利益だけで住民の命や健康を危険にさらさないでほしい。
- ⑥ もんじゅの再稼働に反対している住民は、大変多くいます。敦賀市民だけでも60%を超えるところだと思いますよ。ましてや日本全土においては、信じられないぐらいの皆さんが反対しています。住民の声もまともに聞かないで、住民の財産を奪い、命や健康までも奪うもんじゅの存続に奔走するのは、直ちにやめるべきです。

もんじゅ

「廃炉前提で存続も信じる」



もんじゅについて「廃炉が前提となる」とは信じていないと市長は述べている。13日、敦賀市役所

政府は日本原子力研究開発機構の高速増殖炉もんじゅ（敦賀）を廃炉にする方向で最終論議に入ったものの、現場に詳しいもんじゅの元関係者からは「もんじゅは研究開発の役割を十分に果たしており、廃炉にする必要はない」と論議。「役割を果せる運営主体をさくこと」として、もんじゅの廃炉とならば場合の影響に

関するよう懸念が示されている。もんじゅは、敦賀市役所において、市長が講演した。この講演で、市長は「もんじゅの役割は、原子力発電の分野に限りなく広がり、地域振興にも大きく寄与している」と述べた。また、もんじゅの廃炉に伴って、敦賀市の産業や雇用にも大きな影響があるという。市長は「もんじゅの役割を最大限に果たすためには、廃炉を前提とせず、原子力発電の分野に限りなく広がり、地域振興にも大きく寄与している」と述べた。

「廃炉にせよ」と主張するなか、2030年以降、原子力発電の需要は依然として高水準で推移している。もんじゅの廃炉は、原子力発電の分野に限りなく広がり、地域振興にも大きく寄与している」と述べた。また、もんじゅの廃炉に伴って、敦賀市の産業や雇用にも大きな影響があるという。市長は「もんじゅの役割を最大限に果たすためには、廃炉を前提とせず、原子力発電の分野に限りなく広がり、地域振興にも大きく寄与している」と述べた。